

授業改善等に関する報告書（2024年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2024 (後期) 国際学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Effective Communication a(L1クラス)	エドワーズ, マイケル・アンソニー 三田 薫	アンケートから、皆さんが積極的に授業に参加していたことがわかりました。また「ライティングの書き方やプレゼンの仕方など、留学に向けて実践的な英語力が身についた。」「自分の苦手な部分を知ることが出来た。」「いままで勉強してきた文法に加えて、ライティングのルールやプレゼンの仕方などを勉強できて力になりました。」「といったコメントから、自分の文法の弱点を克服し、ライティングのレベルを上げることができたことが伝わってきました。これからも学習を続けてさらにレベルアップしていきましょう。
Effective Communication a(L2クラス)	栗田 智子 エドワーズ, マイケル・アンソニー	It was a pleasure to teach such conscientious students. The textbook used was quite challenging with both vocabulary level and subject matter. Students did well and most were well-prepared for class.
English Workshop c	三田 薫	アンケート結果から、皆さんが意欲的に授業に取り組んでいることがわかりました。また「英語を理解する力と英語を話そうとする積極性を身につけることができた。」「すらすら英語を喋れるようになった。」「DMM英会話をするたびに英会話力が向上した。」「といったコメントから、皆さんが英語を話すことに自信を持てるようになったことが伝わってきました。これからもこの学習をぜひ継続してください。
異文化コミュニケーション論 a	久保田 佳枝	アンケートにご回答ありがとうございます。この授業では異文化コミュニケーションが目指す「みんな違ってみんないい」を理解して頂くために、日本と諸外国の文化の違い、またコミュニケーションの違いをみてきました。全てオンデマンド形式の授業でしたが、皆さんから適宜、manaba個別コレクションより個別のコメントを頂き、嬉しかったです。次年度も引き続き「異文化コミュニケーション論b」授業が開始となります。更なる知識の蓄積と定着を目指して、今学期学習したことをケーススタディとして学習します。この調子で取り組んでいきましょう。
英語学入門 b	藤原 正道	忘れずに講義を視聴し、小テストを提出した受講生がほとんどですが、オンデマンドにありがちの未視聴、未提出がかなり見受けられます。より分かりやすい講義をしていきたいと思えます。
海外の日本文学	大塚 みさ	この授業では、セガサミーとの社会連携を導入しました。担当教員による授業と、企業連携授業とが入り交じる形となり、混乱が生じないかと案じていましたが、みなさんが柔軟に適応し、どちらにも積極的に参加することができたことをうれしく思いました。日本語と英語との違いや、オノマトペを中心とした日本語のよさに気づいたという声も多く寄せられました。企業連携プログラムを通して感じた成長実感については、具体的な気づきが大変多く報告されました。授業はランダムなチーム編成で行いましたが、協働作業の効果や統率力、発言力の向上等、コンピテンシーが高まったという報告も多くありました。文化の盗用に関する企業課題は、難易度も高いものでしたが、一人ひとりが真摯に、そしてチームで協働して取り組んだ結果が、多くの学びにつながったことと思えます。この学びを今後の大学生活に活かしていきましょう。
観光学入門 a	武内 一良	この観光学という新たな学問領域の導入をオンデマンドで行うのは、私にとって初めての試みでした。そのため、慣れないことが発生し、学生の皆さんには不便をおかけしてしまいました。この経験を活かし、次年度は皆さんに心から楽しんでもらえる授業展開を考えていきたいと思えます。
観光学入門 b	武内 一良	この観光学入門 b は、現実の観光業界と理論的な構造をつなぐ役割を担っていますが、理論を学習する観光学入門 a と同時進行で後期に設置されていたため、分かりにくかった面があったのではないかと思います。2025年度は、観光学入門 a が前期に置かれ、観光学入門 b が後期に置かれることになったので、2025年度は分かりやすい流れを作れるかと思えます。
基礎演習(①クラス)	大塚 みさ	この授業は、今後の大学での学びに必要なスキルをみがくことを目的としているため、成長実感度が高かった点に大変うれしく思いました。その根拠としては、引用を中心としたレポート作成スキルが十分に身についた点が多く上げられていました。また人前でプレゼンを行うスキルについても苦手意識を克服できたことが多く指摘されていました。さらに、テーマとした国際問題への関心が深まったことなども触れられていました。レポートの相互評価については、概ねポジティブな評価が多かったですが、評価基準の統一、徹底等の課題があることもわかりました。来年度さらにより良い授業を提供できるよう、工夫を凝らしていきたいと思えます。
基礎演習(②クラス)	久保田 佳枝	必修科目であり、また1時間目の授業であったことから、毎回の授業に遅刻することなく出席は大変だったことと思えます。朝早くからのプレゼンやレポート作成等に関する学び、よく頑張りました。2年生以上になるとレポート課題もこれまでよりも増加してくると思えますので、書き方や参考文献の引用の仕方等、迷った時にはこの授業で利用した教科書に立ち戻り、学習することをお勧めします。

[2024（後期）国際学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
基礎演習(③クラス)	小牧 幸代	<p>基礎演習は、前期の実践入門セミナーに続く、必修の対面授業でした。内容は、日本中の全ての大学1年生が受講する初年次教育の実践女子大学パージョンの続編で、グループディスカッションや長文レポートの書き方など、大学生として身につけるべき技術を習得するための訓練が中心でした。</p> <p>前期の実践入門セミナーの最後に提出してもらったレポートと、後期の冬休み前に提出してもらったレポートを比べると、ほとんどの人が自分の意見を分かりやすく伝える技術を向上させていました。形式面では、まだルールを守れていない人もいましたが、内容面では本当に素晴らしい仕上がりました。</p> <p>授業で繰り返し話したように、レポートや論文は、形式も非常に大事です。授業で配付した「相互採点票」のプリントを、スマホで写真に撮るなどして保存し、レポートの課題やテストがある時は、このプリントを見て、セルフチェックをしてから提出するようにすれば、形式面での減点が少なくなると思います。形式が整えば、期末レポートで見せてくれた、素晴らしい内容面で勝負することができます！</p> <p>これからの授業でも、レポート提出の機会はたびたびあると思います。期末レポートはやや長文ですし、4年生になると卒業論文という「大学生活の集大成」というべき超長文作成も待っています。この授業で身につけたレポート作成術を、レポート作成のたびにどんどん磨き上げ、自分の意見を的確に言語化できるスキルを確実に身につけていってください！</p>
基礎演習(④クラス)	コルネーエヴァ, スヴェトラーナ	<p>ご回答ありがとうございます。</p> <p>レポートの構成や書き方について学んだことを通して、「人前で発表することに抵抗感がなくなった」ことや「レポートの技術が上がった」など、成長を実感した意見が寄せられました。</p> <p>1年間を通して学修したことを次に活かしてもらいたいと思います。</p>
基礎演習(⑤クラス)	武内 一良	<p>基礎演習という授業の実態がなかなか学生には理解しづらいものがあると思います。配付資料などを与えられながら進めていく授業ではない形態、例えばユニット対抗デベート大会などを通じて社会性やコミュニケーション力を養うものでしたが、学生の方々にそのところが理解できにくいかも知れません。</p>
基礎演習(⑥クラス)	三田 薫	<p>アンケートから、皆さんが意欲的にこの授業に取り組んだことがわかりました。また「AIの使い方やWordとパワポを使った操作に慣れることができました。」「レポートを書くだけでなく、発表をすることでさらに理解が深まった。準備や他の子の発表からやり方も学んだ。」「レポート作成や生成AIについての理解が深まり、活用できた。」といったコメントから、自分に役立つことを取り込もうという姿勢が伝わってきました。スピードが速すぎた点は今後修正したいと思います。</p>
現代日本社会論	コルネーエヴァ, スヴェトラーナ	<p>ご回答ありがとうございます。</p> <p>自由記述の中に「日本社会についての理解が深まった」や「課題や問題を発見する力が身についた」という意見が大多数でしたが、「穴埋めが難しかった」という感想も見受けられました。</p> <p>貴重な指摘を受け、今後も工夫して、より取り掛かりやすい講義の実施に努めて参ります。</p>
国際メディア論	田中 瑛	<p>この授業では、メディアと国際社会の関係性を批判的に読み解くための視点を学びました。国際社会にもメディアにも白黒つけることの難しい矛盾や葛藤があり、比較的難しい理論も紹介しましたが、期末レポートでは非常に理解度の高いものが多く見られました。アンケートでもフィードバックやゲスト講義を通じて多くの学生が視野を広げることができたことと答えてくださり、大変ありがたく思います。今後も、学んだ知識を自分自身が見聞きしたさまざまな事例に当てはめて考えてみてほしいと思います。</p> <p>他方で、残念ながら一部の学生の私語が大きくて授業に集中できなかったとの声も聞かれ、実際に成績評価も大きく分かれる結果となりました。教員の話聞くかどうかは皆さんの自由ですが、私語が大きくなりすぎると授業を聞きたい他の受講者の権利侵害になります。私語を厳しく取り締まることも考えましたが、皆さんはもう大学生、大人ですので、教員がそのような強硬的な手段を講じなくても済むように、自分自身を律するようになってほしいです。</p>
国際文化事前研修	久保田 佳枝	<p>コメントくださった方々、ありがとうございます。必修科目にも関わらず金曜日4時間目の授業であったことから、朝から4時間目終了まで大変お疲れ様でした。国際学部での初の試みとして次年度の必修留学前の準備講座であったことから、皆さんのニーズに見合う情報を提供できているか心配でしたが、皆さんのコメントを拝見して少し安心いたしました。留学は異国へ出向くことから、事前に準備できることは限定的で全ての情報がそろわないのは当然のことです。今現在不安を持っている方もそれも留学前の経験の一つとなります。ワクワク感と不安な気持ちの両側面を持ち合わせながらも、「なるようになる」と大きく構えて今年の留学を楽しみに待ちましょう。</p>

[2024 (後期) 国際学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
国際文化事前研修	小牧 幸代	<p>国際文化事前研修は、必修の海外留学に参加するための事前準備科目でした。学生時代に海外留学を経験することは、達成感や責任感を高め、社会人基礎力を習得するために非常に有効です。授業では、海外で発生する事件や犯罪に巻き込まれないようにするためのリスクマネジメント、留学先の大学やホームステイ先・学生寮、地域社会で友好的な関係を築くための対人コミュニケーション、さらに14の留学候補大学とその大学が立地する国や地域に関する情報の収集などについて、主としてグループ・ディスカッションという形式をとりながら学んでいきました。</p> <p>最後に、授業で学んだことを形にするために、自己紹介アルバムを作成してもらいました。このアルバムは、留学先で新しい友人関係を築くためのツールとして、みなさんが想像する以上の重要な意味を持っています。提出したアルバムを最終版とするのではなく、さらに追加したり修正したりして、自己表現および自己実現のための最強のパートナーにまでバージョンアップさせていってください。そのためには、日本を知る、留学先を知る、相手のことを想像する、自分自身を振り返る…という作業が大切です。あと半年です。時間を有意義に使って、ますます学びを広げ、深めていってください！</p>
国際文化事前研修	武内 一良	<p>リスクマネジメントに関する授業でいえば入国審査に関する現場の説明や外国の生活状況についての説明が足りなかった点、あるいは国際語である英語による対応について具体的な表現方法の紹介が十分でなかった点を反省し、辛い所に手が届く授業設定にしていきたいと思います。</p>
国際文化論 b	小牧 幸代	<p>国際文化論bでは、フィールドワークに基づく様々な具体例を、宗教、女性、グローバル化という観点から検討することで、世界に広がる南アジアの人々の文化に対する理解を深めていくことを目指しました。グループごとに南アジア女性への英語でのインタビューにも挑戦し、授業で習得した知識の活用の仕方についても考えました。</p> <p>授業の内容に対して履修者数が想定以上に多かったため、大教室への教室変更となり、距離感が生まれてしまいました。結果として、細やかな指導ができなかったり、一人一人の発言の時間が不足したり、コミュニケーションが十分にとれなかったりしたことが、私にとっては大きな心残りです。</p> <p>とはいえ、履修者のみなさんは、南アジア女性への英語でのインタビューを立派に成し遂げたことを誇りに感じてほしいと思います。また、筆記試験の点数は、全体的にとってもよかったことを高く評価したいと思います。</p>
日本語学入門 b	大塚 みさ	<p>オンデマンド授業でしたが、みなさんがresponやリアクションペーパーで積極的に参加してくれたので、双方向的なやり取りができたように感じています。「日本語の素晴らしさを知ることができた」「日本語の使い方を再認識した」など、日本語への興味関心を深められたという声が多く、うれしく思いました。また授業への満足度も高く安堵しました。</p> <p>課題の分量や難易度に応じて、講義動画のボリュームを抑えるなどして対応しましたが、課題の量が「ちょうどよい」という人もいれば「重い」と感じた学生もいたようです。この点は、次年度工夫を凝らしたいと思います。</p>
日本語教育入門 a	大塚 みさ	<p>この授業では、日本語教育の基礎を学びました。概ね良い評価を得られて安堵しました。</p> <p>自由記述の意見からは、教員の期待以上の学びが得られたことがよく分かりました。日本語教育を「日本語教師」の立場から、「日本語学習者」の視点から、あるいは双方から考えられたという声が多く寄せられました。また技能実習生やさしい日本語について関心が高まったという声もあり、毎回の授業に真摯に取り組んでもらったことが改めて実感されました。</p> <p>グループワークを豊富に取り入れた点については、視野が広がった、(ロールプレイなどを通して)日本語教育を受けている気分になったといった報告がありました。今後もグループワークを活用して、授業改善を図っていきたいと思います。</p>
日本文化論 b	コルネーエヴァ, スヴェトラナ	<p>ご回答ありがとうございます。</p> <p>「日本文化について学ぶことができた」という、学びに満足している意見をいただきました。今後も充実した講義の実施に努めて参ります。</p>
認知文法論	藤原 正道	<p>今まで学んできた内容とはかなり違う切り口の認知科学なので、少々難しかったかもしれませんが、資料などもより分かりやすく改良したいと思います。</p>